



5月19日の一の瀬湿原の水芭蕉、せせらぎの遊歩道と玄関に咲く石楠花。

志賀の地名と伝承

岩菅山・・・表岩菅山(2295m)・裏岩菅山(2341m)

1112年、山頂に大山祇命が祀られる。沓野区の氏神天川神社の奥社。

98年長野オリンピック開催の際、滑降コース開設問題で有名になりました。自然保護の観点からコースは開設されず、滑降競技は白馬で行われました。

ノッキリ・・・岩菅山の八合目辺りの所で、霧が晴れる場所で「退く霧」からノッキリと付けられたそうです。

一の瀬・・・高天ヶ原の車井の谷地を源にした車井川(小雑魚川)の流れがここで急になるところから一の瀬となづけられたそうです。

高天ヶ原・・・里から登って行くことが大変で、ようやく台地に立ってみれば吹く風は強く、静かな時はひっそりと静まり返っている様子が、御嶽教の経分の一節「高天ヶ原に神とどまります」からまるで高天ヶ原のようだなあということから名づけられたそうです。

東館山・・・お坊さんが密教法具の独鈷杵を置く小屋を作ったので、地元では昔からトッコ小屋の山と呼んでいたそうです。

発咄温泉・・・温泉がポツ、ポツと湧き出しているところから発咄温泉とつけられたそうです。佐久間象山の沓野日記には北方の湯と書き印されています。

蓮池・・・スイレン科の多年草「コウホネ」が自生していたこつからつけられたそうです。

大沼池・・・文字通り、大きな沼のような池。強酸性湖。まんが日本昔ばなしにも登場した「黒姫と大蛇」の発祥の地。物語のあらすじは下に書きました。

琵琶池・・・琵琶の形をしているところから付けられたそうです。琵琶池とびわ法師さまと言う昔ばなしがありますので次号で紹介致します。

坊平・・・牛馬の干草の採草地として地元民に利用されてきた蕨が沢山取れた所で、蕨のことをここでは「ぼてら」ということからぼてらの平が訛ってぼうだらとなったそうです。

沓打・・・昔、渋、沓野から草津街道を登っていく時、一足目の牛馬達の藁靴を履き替えた場所で、茶屋もあったそうです。

潤満滝・・・志賀山の噴火で溶岩が坊寺山に接して出来た「平戸湖」と呼ばれる湖が出来、その溶岩の割れ目から滲み出る水が潤満滝となって流れており、潤満とは岩の割れ目から滲み出る水のことだそうです。

物語「黒姫と大蛇」

戦国の頃、中野市に高梨城というお城があり、この地を高梨氏が治めていた頃のお話です。

姫の名は黒姫といいます。ある年の春の日、成人となった黒姫は城内での春の宴に出ておりました。城下での姫の評判は、大変美しい姫であると、その噂は忽ちに隣の村々にとどろくほどでした。調度その日、山奥の池に棲む大蛇も若侍に姿を変え宴の姫を見にやって来ました。若侍は、城の中での美しい姫を見つけました。姫も又若侍の姿を目にしました。

宴が終わってしばらく経った頃、お城に一人の若侍の姿がありました。若侍はお殿様(黒姫の父)に、黒姫様をお嫁に欲しいと言って来ました。殿様は、祭りの日以降の姫の様子がおかしいことから、いろいろ調べた結果、その若侍は山の池の主大蛇が身を変えていることをすでに知っておりました。殿様は若侍の要求を無げに断れば何をされるかわからないと思い、ある案を考えました。殿様は若侍に日を定め、その日に城の周りを7周すれば姫を嫁にやる約束をしました。

約束の日、若侍は馬にまたがり、約束通り城の周りを回り始めました。しかし中々上手く進めません。城の周りには剣や槍を天に向けて差して上手く進めぬように、殿様が細工をしたためでした。若侍は約束を果たすために前に進みましたが、体のあちこちに傷を負い、約束の7周を回る頃には、本来の大蛇となっておりました。約束を果たした若侍は殿様に姫を嫁にといいます。殿様は、そんな約束はした覚えがないと若侍を追い払いました。約束を破られた若侍は、「おのれ、この恨みは山の大池の水で街を流してくれるわ」と大沼池にもどり、水門を開けて大水を流しました。

山からの大水で城下は水浸しとなり何日も水の引くことが無く、被害は段々と大きくなってきました。この様子を見ていた姫は天守閣に登り、西の窓を開けひたすら祈りました。そうすると、彼方からつむじ雲の塊が現れ、天守閣の周りを囲んだと思う間もなく、西の彼方の山に去って行き、姫の姿もお城からは消えておりました。以来、この山は黒姫山と呼ばれるようになりました。 おわり

志賀高原では黒姫と大蛇の物語に因み、毎年8月の第4週の土、日に大蛇祭りを実施しております。祭りは大沼池での水神様へのお祈りから始まり、メインイベントでは黒姫に因み、ミス志賀高原コンテストが行われます。又、中野市では、毎年7月の中旬にぎおん祭りが行われますが、祭りの日には必ず雨が降るといわれています。